Ⅱ 研究活動と業績

資 源 開 発 部 門

教 授　　谿　　忠 人（薬学博士）3月1日から

助教授(併任)　小 松 かつ子（薬学博士）3月31日まで

助 手　　山 路 誠 一（博士(薬学)）

◇研究目的

医薬科学は発展してきたが，個性や気質に由来し治癒し難い慢性の疾患が残っている。これらには，現代医療と伝統医療を併用するのが有用である。伝統医療の有用性を保証するためには，用いられる天然薬物の来歴や用法を考証し基源を確定する研究が基礎になる。

資源開発部門は，この領域を担い，伝統薬物に関する経験知を継承・検証し，現代医療における有用性を基礎的に評価する部門である。

（なお98年3月に谿が着任し研究目的や課題を改変中である。昨年までの資源開発部門の広範囲な研究領域や目的の中から「漢方薬学」に焦点を当てた内容に変更してゆきたい。）

◇研究概要

1．和漢薬（とくに漢方用薬）の医薬史学・生薬学的研究（漢方薬の学）

(1) 歴代の医方書（処方集）で用いられている漢方用薬のデータベースを構築し，使用頻度から用法や薬能を検証し，科学研究や臨床応用の指針を探る研究に着手した。
［学会発表リスト：1～5］

(2) 今までの継続課題として伝統薬物の基源を医薬史学的に考証する研究を行った。
［学会発表リスト：6］

2．漢方方剤や生薬製剤の薬剤学的研究（漢方の薬学）

生薬と化学薬品を含む配合剤（生薬製剤）における生薬の配合意義を，化学薬品の生物学的利用率に及ぼす影響を指標にして検証する研究に着手した。［学会発表リスト：7］

3．その他の研究

(1) 植物の断片から基源を解明する生薬学的研究の手法を，植物中毒の予防や中毒植物の鑑定に活用することを試みた。［学会発表リスト：8］

(2) 谿の前職における研究を論文にまとめ，学会発表した。
［原著リスト：1～8；学会発表リスト：9］

4．和漢薬や漢方製剤の医薬情報研究（和漢薬のDI：医療漢方薬学）

(1) 和漢薬や漢方製剤の経験知と客観知を対比してまとめ，和漢薬の卒前教育と，医療担当者への卒後生涯教育，および一般人への教育啓蒙活動を行った。
［著書リスト：1；その他リスト：1，2，3］

◇著　書

1）谿　忠人（著）「図表で見る現代医療の漢方製剤（伝承の知から科学の知へ）」，医薬ジャーナル社，大阪，1998.

◇原　著

（以下は谿の前職での研究であり，資源開発部門の研究目的と異なるものも多いので要旨を省略する）

1) Hirotsu I., Hayano C., and Tani T.: Effect of muscarinic agonist on overflow incontinence induced by bilateral pelvic nerve transection in rats. Jpn J Pharmacol., 76 : 109–111, 1998.

2) Kakiuchi N., Komoda Y., Komoda K., Takeshita N., Okada S., Tani T. and Shimotohno K.: Nonpeptide inhibitors of HCV serine proteinase. FEBS Letters, 421 : 217–220, 1998.

3) Ishikawa Y., Watanabe K., Takeno H. and Tani T.: Effects of the novel oral antidiabetic agent HQL-975 on glucose and lipid metabolism in diabetic db/db mice. Arzneim.-Forsch./Drug Res., 48(I) : 245–250, 1998.

4) Quanbo Xiong, Hase K., Tezuka Y., Tani T., Namba T., and Kadota S.: Hepatoprotective activity of phenylethanoids from *Cistanche deserticola.* Planta Medica, 64 : 120–125, 1998.

5) Ishikawa Y., Takagi Y., Takeno H., Watanabe K., and Tani T.: Action of the novel oral antidiabetic agent HQL-975 in genetically obese diabetic db/db mice. Biol. Pharm. Bull., 21 : 928–933, 1998.

6) Matsushita N., Hizue M., Aritake K., Hayashi K., Takada A., Mitsui K., Hayashi., Hirotsu I., Kimura Y., Tani T., and Nakajima H.: Pharmacological studies on the novel antiallergic drug HQL-79. I. Antiallergic and antiasthmatic effects in various experimental models. Jpn. J. Pharmacol., 78 : 1–10, 1998.

7) Matsushita N., Aritake K., Takada A., Hizue M., Hayashi K., Mitsui K., Hayashi M., Hirotsu I., Kimura Y., Tani T., and Nakajima H.: Pharmacological studies on the novel antiallergic drug HQL-79. II. Elucidation of mechanisms for antiallergic and antiasthmatic effects. Jpn. J. Pharmacol., 78 : 11–22, 1998.

8) Ishikawa Y., Nagumo M., Saito I., Ikemoto T., Takeno H., Watanabe K., and Tani T.: Actions of the novel oral antidiabetic agent HQL-975 in insulin-resistant non-insulin-dependent diabetes mellitus model animals. Diabetes Res. Clin. Practice, 41 : 101–111, 1998.

◇学会報告

1）谿　忠人：小柴胡湯の証と配剤生薬の薬能と選品：日本生薬学会関西支部平成9年度春季講演会，1998. 3，大阪.

2）谿　忠人，赤丸敏行：漢方用薬と中葯の薬能を探る(1)歴代の処方を構成する生薬の使用頻度．第49回日本東洋医学会学術総会，1998. 5，熊本.

3）Tani T.: Historical and herbological study on traditional Chinese pharmacology. JSPS-KOSEF joint seminar on traditional oriental medicines, 1998. 7, Toyama.

4）赤丸敏行，谿　忠人：漢方用薬と中葯の薬能を探る(2)『温病条辨』と中医学処方を構成する生薬の使用頻度．平成10年度日本東洋医学会関西支部例会，1998. 10，京都.

5）谿　忠人：漢方用薬と食用生薬の来歴と現状．日本生薬学会関西支部平成10年度秋季講演会，1998. 11, 大阪.

6）山路誠一，小松かつ子，難波恒雄，谿　忠人：伝統薬物の医書本草学的研究（1）*Swertia* 属植物を基源とするチベット薬物（Tig-ta）について．第15回和漢医薬学会，1998. 8, 富山.

7）西野隆雄，山下恵見，吉村由香里，谿　忠人：生薬の薬剤学的研究(5) 生姜エキスによる Acetaminophen の消化管吸収相互作用(2)．[6]-Gingerol の作用．日本薬学会第118年会，1998. 3, 京都.

8）郡山一明，西岡憲吾，山路誠一，屋敷幹雄：中毒災害シュミレーション「有毒植物中毒」．第2回日本中毒学会九州地方会，1998. 11，長崎.

9）伊藤正明，松生好雄，難波健輔，中田勝久，谿忠人：ヤマブシタケ（*Hericium erinaceum*）熱水抽出物の抗腫瘍作用．日本生薬学会第45回年会，1998. 9, 仙台.

◇その他

1．和漢薬（漢方医薬学）の卒前教育：

1）谿　忠人：漢方製剤療法の考え方．第20回医学生・研修医のための東洋医学セミナー（北里研究所）特別講演．1998. 8, 東京.

2）谿　忠人：わかりやすい漢方処方解説．和漢薬研究所夏期セミナー．1998. 8, 富山.

3）谿　忠人：漢方薬研究の進歩と今後．南京中医葯大学特別講義．1998. 10, 南京（中国）.

4）谿　忠人：漢方薬の組織化学的研究．中国葯科大学特別講義．1998. 10, 南京（中国）.

5）谿　忠人：名古屋市立大学大学院薬学研究科・特別講義「天然薬物（とくに和漢薬）の研究と応用」1998. 12.

6）山路誠一：漢方薬作りを体験しよう．和漢薬研究所夏期セミナー．1998. 8, 富山.

2．和漢薬（漢方医薬学）の卒後生涯教育（和漢薬の DI 活動）：

2 A）論説

1）谿　忠人：漢方用薬の伝承と科学(27)証を考慮するための薬能と薬理．漢方調剤研究，6(1)：24-27, 1998.

2）谿　忠人：漢方用薬の伝承と科学(28)附子（上）．漢方調剤研究，6(2)：16-18, 1998.

3）谿　忠人：漢方製剤の使用上の注意(3)柴胡桂枝湯の証と薬能と薬理．薬局，49：532-539, 1998.

4）谿　忠人：漢方用薬の伝承と科学(29)附子（下）．漢方調剤研究，6(3)：21-23, 1998.

5）谿　忠人：漢方製剤の使用上の注意(4)柴胡の配剤された理気剤の証と薬能と薬理．薬局，49：707-714, 1998.

6）谿　忠人：漢方製剤の使用上の注意(5)四逆散関連処方の証と薬能と薬理．薬局，49：891-898, 1998.

7）谿　忠人：漢方用薬の伝承と科学(30)半夏．漢方調剤研究，6(4)：18-20，1998.

8）谿　忠人：漢方製剤の使用上の注意(6)皮膚科領域で用いられる柴胡配剤処方の証と薬能と薬理．薬局，49：1043-1050，1998.

9）谿　忠人：漢方製剤の使用上の注意(7)柴苓湯の証と薬能と薬理．薬局，49：1193-1200，1998.

10）谿　忠人：漢方用薬の伝承と科学(31)五味子．漢方調剤研究，6(5)：17-19，1998.

11）谿　忠人：漢方薬の素朴な疑問に答えます(1)漢方医薬は「あいまい」ですね．調剤と情報，4：1762-1767，1998.

12）谿　忠人：漢方用薬の伝承と科学(32)栝楼根と栝楼仁．漢方調剤研究，6(6)：20-22，1998.

13）山路誠一：植物における微細構造解析の新たな担い手・原子間力顕微鏡．ファルマシア，34：1010-1011，1998.

2 B）講演

7）谿　忠人：小柴胡湯製剤の諸問題．富山漢方会平成10年度第1回講演会，1998. 4，富山.

8）谿　忠人：いま，なぜ，漢方薬か．富山市家庭薬薬剤師会総会・特別講演，1998. 5，富山.

9）谿　忠人：中医学と日本漢方と漢方製剤療法．ライフサイエンス・テクノロジー・トランスファー(LSTT)フォーラム．1998. 6，京都.

10）谿　忠人：附子を上手に使うために．第51回臨床漢方薬理研究会，1998. 6，京都.

11）谿　忠人：麻黄剤．日本東洋医学会和歌山地区講演会（日本東洋医学会教育講座），1998. 11. 和歌山.

2 C）新聞記事

1）谿　忠人：今，何故，漢方薬か．薬日新聞：1998年7月29日.

3．一般人への和漢薬の啓蒙と教育：

3 A）講演

12）谿　忠人：薬草文化誌（漢方医学に学ぶかしこい生活術）．とやま薬草同好会講演会，1998. 5，富山.

13）谿　忠人：漢方薬の利用の仕方 ～生活“悪”習慣病を例にして～．ＮＨＫ京都文化センター公開講座．1998. 9，京都.

14）谿　忠人：和漢薬との「つき合い方」～生活“悪”習慣病を例にして～．富山医科薬科大学和漢薬研究所・民族薬物資料館一般公開講座．1998. 10，富山.

◇共同研究

1．西野隆雄：大阪薬科大学・第1薬剤学教室
「漢方方剤や生薬製剤の薬剤学的研究」1998. 3～

2．赤丸敏行：（財団法人）大阪漢方医学振興財団
「和漢薬（とくに漢方用薬）の医薬史学的研究（データベースの構築）」1998. 3～

3．阿部博子，中西有香：近畿大学東洋医学研究所・第Ｉ研究部門
「漢方方剤の薬能の薬理学的研究」1998. 4～

4．広瀬保夫：新潟市民病院・救命救急センター
「有毒植物中毒の原因種の鑑定研究」1998. 8～
5．王　崢涛：中国薬科大学
「中葯の活性成分と品質評価の研究」1998. 12～

◇非常勤講師等

1．谿　忠人：近畿大学東洋医学研究所．非常勤講師　1998. 4～
2．谿　忠人：（財団法人）大阪漢方医学振興財団（理事）．1998. 3～

◇研究費取得状況

1．平成10年度文部省科学研究費補助金，奨励研究（A）（代表：山路誠一）「画像解析装置による葉類生薬鑑別法の開発に関する研究」
2．平成10年度教育研究学内特別経費（代表：谿　忠人）「アトピー性皮膚炎モデルの開発と漢方方剤の作用評価および活性成分の構造研究」

◇研究室在籍者

研究生（国費外国人留学生）：何　菊秀（中国薬科大学，1998. 10～）
外国人客員研究員　　：蔡　金娜（中国薬科大学，1998. 12～）